

第2章

安全・安心な大会運営

横浜市では野球・ソフトボール、サッカー各競技を安全かつ円滑に開催・運営するため、東京2020組織委員会、警察、消防、交通事業者、医療機関などの関係各所と緊密に連携し、万全の体制を整えた。また、観客のおもてなしのため、各種事業の事前検討を進めたが、最終的には無観客開催等に伴い、縮小・中止を余儀なくされた。



大会運営本部・支部

新型コロナウイルス感染症の影響で無観客開催となり、来街者向けに準備していた案内デスクの設置や暑さ対策の実施、CCY(横浜市・都市ボランティア)活動などの中止を余儀なくされた。そのため、大会運営本部(現地支部)の活動は、主に大会運営に必要な都市情報(ライフラインや公衆衛生など)や危機事案などの情報を集約し、東京2020組織委員会や大会警戒本部(総務局危機管理室)、神奈川県などとの情報共有や連絡調整に特化する形となった。

大会期間中は、様々な情報伝達手段を活用して、迅速な情報共有を図った。また、競技会場内外の情報伝達要員として、東京2020組織委員会から大会運営本部に派遣された「自治体リエゾン」とも常時、情報共有・連携し、競技運営や台風接近時の対応など、不測の事態が起きても即応できる体制を整えた。

競技開催日における大会運営本部(現地支部)の設置場所に関しては、【関内地区】関内中央ビルと【新横浜地区】セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター(以下「伊藤研修センター」という。)にそれぞれ設置した。

大会運営本部(現地支部)は、総括班(特命班を含む)、大会運営班(野球・ソフトボール班/サッカー班)、医療救護対策班(コロナ対策を含む)から構成された(P50記載の「横浜市の大会運営体制」参照)。

設置場所

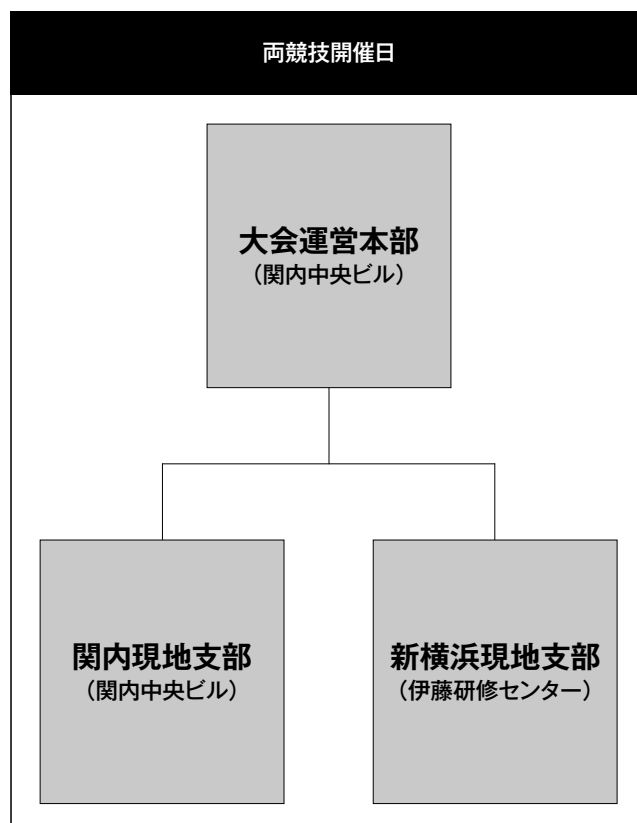
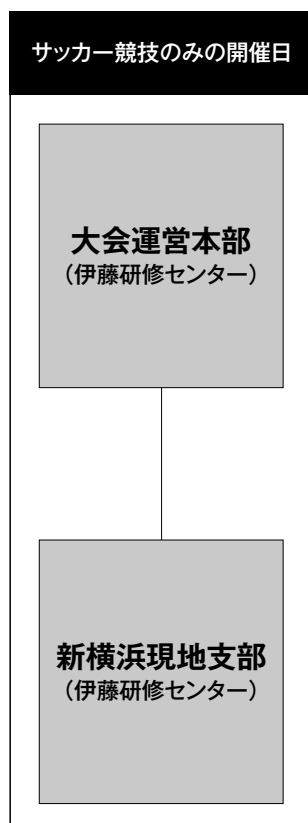
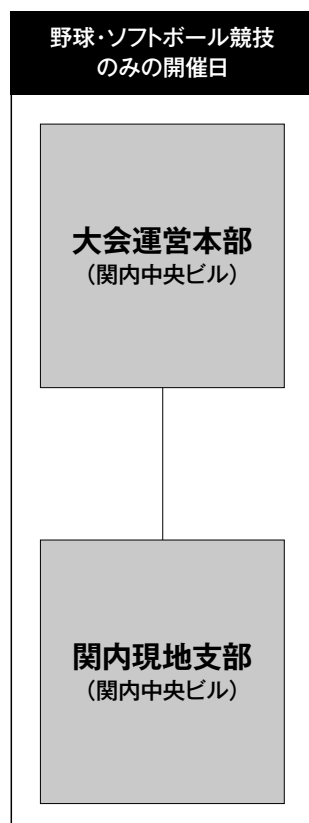
●関内中央ビル(関内地区)

●伊藤研修センター(新横浜地区)

※運営時間は、競技開始3時間前(サッカー競技は4時間前)から競技終了2時間後までを予定していたが、無観客開催に伴い、競技開始1時間前から競技終了1時間後までで実施した

大会運営本部の組織体制

※野球・ソフトボール競技のみ7日間、サッカー競技のみ3日間、両競技開催日6日間



サッカー女子決勝の会場変更への迅速な対応

8月6日のサッカー女子決勝(スウェーデン-カナダ)は、当初、オリンピックスタジアムで試合が予定されていたが、気温上昇による選手の健康への配慮、陸上競技による芝コンディションへの懸念から、急遽、横浜国際総合競技場でのナイター開催に変更された。

決勝前日の夕方に、東京2020組織委員会から大会運営本部に横浜開催の可否について確認の連絡が入った。危機管理体制や医療救護体制の確保に関して関係区局が対応可能であること、大会運営本部を伊藤研修センターに設置可能であることを確認し、開催可能と判断した。

決勝戦はPKまでもつれ込んだ試合となったが、最小限の人員体制で大きなトラブルなく無事に終えた。

総括

無観客開催となったが、大会運営本部として大会運営に必要な都市情報や危機事案などの情報を集約し、東京2020組織委員会や大会警戒本部、神奈川県などの情報共有や連絡調整を徹底して実施することができた。特に自治体リエゾンを通じて、競技会場内外の情報共有が行える体制を構築したことで、横浜市と東京2020組織委員会における連絡窓口として十分機能を果たすことができた。

また、医療機関などから大会関係者の新型コロナウイルス感染症や一般傷病に関する相談窓口として対応するため、医療救護対策班を配置し、24時間体制で東京2020組織委員会などの連絡・調整を迅速に行うことができた。

大会運営本部(現地支部)



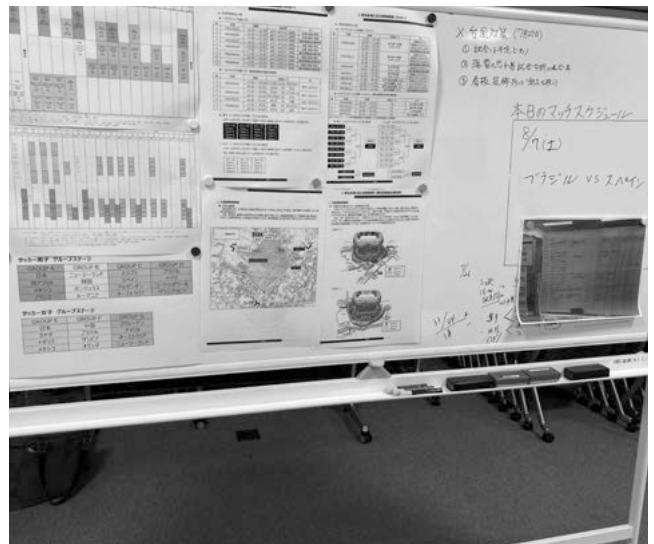
↑関内中央ビルに設置された大会運営本部(関内現地支部)



↑伊藤研修センターに設置された大会運営本部(新横浜現地支部)



↑両現地支部でモニターを使用して、開催試合の動向をチェック

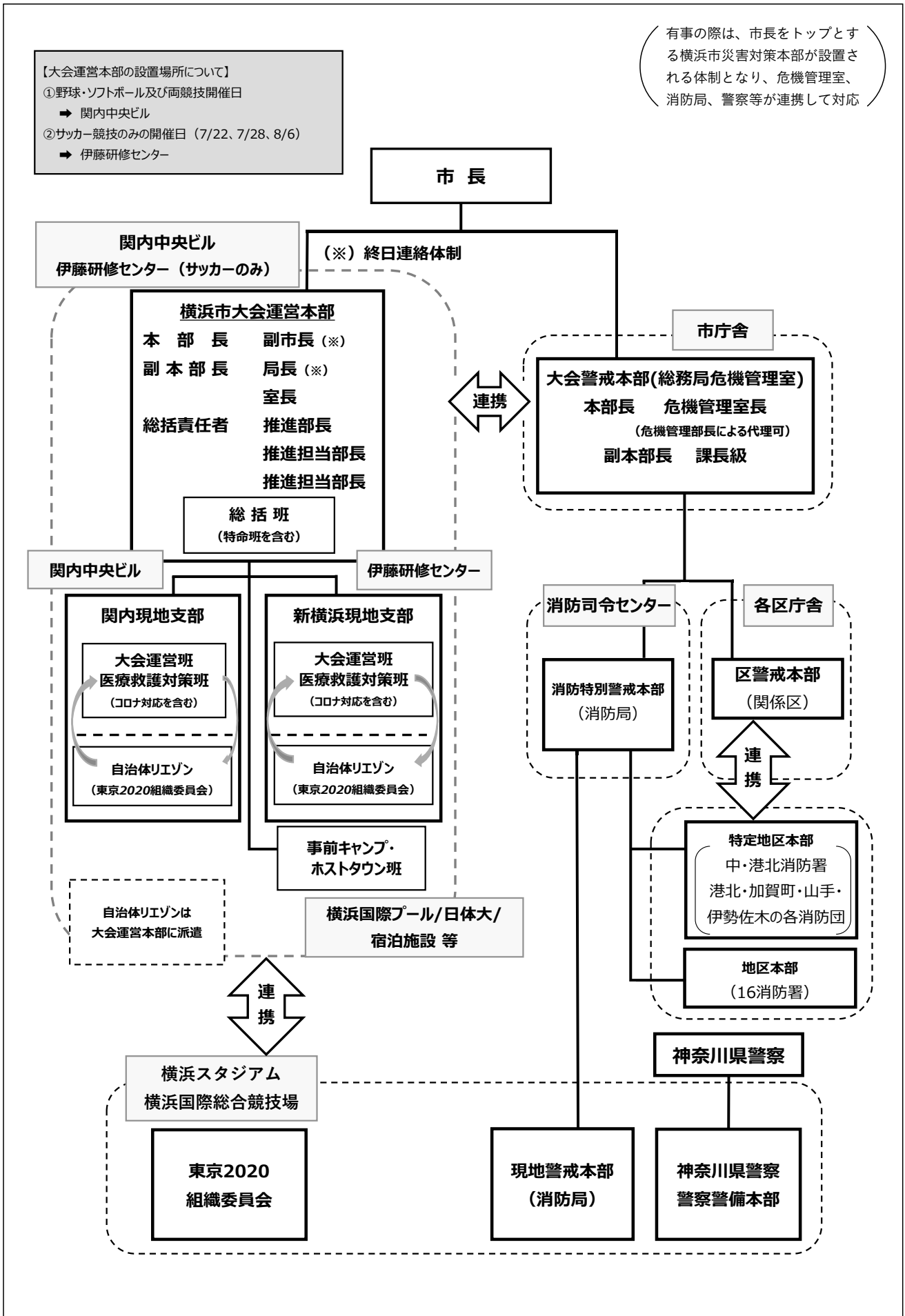


↑新横浜現地支部のサッカー男子決勝当日のホワイトボード

横浜市の大会運営体制



東京2020大会 組織体制全体イメージ図(試合開催)(平時)



ラストマイル

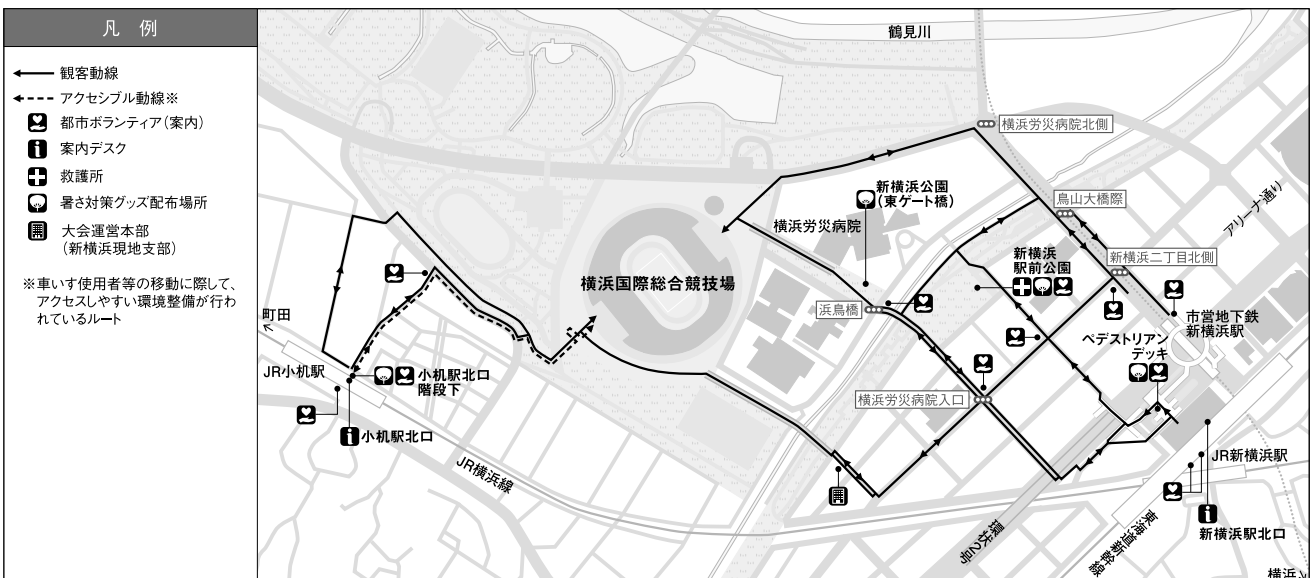
観客が競技会場の最寄り駅から競技会場まで入退場する経路がラストマイル。大会期間中は多くの来街者が集まり、相当な混雑が予想されるほか、日中の競技開催時には熱中症などの健康リスクも高まることから、案内デスクの設置や暑さ対策等、ラストマイル上で様々な取組を検討して、準備を進めた。しかしながら、無観客開催が決定されたことにより、ラストマイルでの取組の多くは中止となった。

各競技会場のラストマイルマップ

●横浜スタジアム



●横浜国際総合競技場



暑さ対策

大会期間中は多くの来街者が集まり、野球・ソフトボールが日中にも開催されるなど、熱中症などの健康リスクが高くなり、暑さ対策が求められた。競技会場外では、横浜市と東京2020組織委員会が積極的に連携して暑さ対策を検討。しかしながら、無観客開催が決定されたことにより、(2)の交通広告、(4)のその他の対策以外の対策はすべて中止となった。

情報提供・啓発

(1) ポスター・チラシ・Web配信など

熱中症注意喚起のポスター・チラシの配架を予定していた。東京2020大会横浜市ウェブサイトでは、競技会場に来場するにあたっての注意事項(水分補給、日差しを避けるなど)や、暑さ対策グッズの配布場所の情報を掲載する予定だった。

●ポスター

JR東日本各駅(横浜、関内、小机など12駅)、みなとみらい線(全駅)、市営地下鉄(一部の駅)、競技会場周辺のコンビニやドラッグストア(関内周辺15店舗、新横浜周辺13店舗)、区役所、スポーツセンターほか

●チラシ

市内ホテル(11か所)、観光案内所、案内デスク、市内PRボックスほか



→熱中症予防とコロナ感染防止のポスターイメージ

(2) 既存の情報媒体の活用

●交通広告

- ・市営地下鉄の車内デジタルメディアを使った熱中症注意喚起(健康福祉局)
- ・市営バスの接近表示及び市営地下鉄(ブルーライン)のテロップを使った熱中症注意喚起(健康福祉局)

→市営地下鉄の車内デジタルメディアのイメージ



●構内アナウンス

試合開催日に合わせた、駅構内(JR関内駅、みなとみらい線日本大通り駅、JR小机駅、JR新横浜駅)のアナウンスで熱中症の注意喚起(市民局)

大会当日における予防

(1) 暑さ対策グッズの配布や注意喚起

競技会場の最寄り駅前や暑さ対策グッズ配布場所にて、CCY(横浜市・都市ボランティア)によるグッズ(下写真参照)の配布を予定していた。また、大型のうちわ形式のパネルを作成し、熱中症への注意喚起の実施を予定していた。



↑横浜市PRポストカード(全5種、写真は三溪園)付きの冷却シート



→円形うちわ。表面は競技会場周辺MAP、裏面は熱中症と新型コロナウイルス感染症の注意喚起



←塩分補給対策として配布予定だった塩飴



→横浜市PRデザインパッケージのかわり水

(2) 重点実施場所

特に競技会場周辺にて重点的に暑さ対策を実施する場所については、関係各所から協力を得て、対策に取り組む予定だった。

(ア) 場所

- ・横浜スタジアム:旧市庁舎第二駐車場
- ・横浜国際総合競技場:新横浜駅前公園



↑旧市庁舎第二駐車場



↑新横浜駅前公園

(イ) 対策内容

- ・日よけテント・スポットクーラーの設置(東京2020組織委員会)
- ・冷却ミストの散布(水道局・パナソニック株式会社^{※1})
- ・冷却ミストやスポットクーラーの電源として燃料電池自動車(トヨタMIRAI)の使用(神奈川県オールトヨタ販売店等7社^{※1、2})

※1横浜市との連携協定締結事業者

※2神奈川トヨタ自動車株式会社、横浜トヨペット株式会社、トヨタカローラ神奈川株式会社、ネットトヨタ神奈川株式会社、株式会社トヨタレンタリース神奈川、株式会社トヨタレンタリース横浜、トヨタモビリティパーツ株式会社神奈川支社

(3) 観客向け休憩所

中区役所と調整し、来街者の休憩場所として、開港記念会館を活用する予定だった。また、文化観光局の協力を得て、休憩室内にて横浜市のPRポスターの掲示やPR動画の放映を予定していた。



↑開港記念会館

(4) その他の対策

両競技会場周辺や最寄り駅周辺、ラストマイル上の公園等において以下を実施した。

●横浜公園

樹木の育成による緑陰の形成(環境創造局)

●横浜公園周辺

街路樹育成による緑陰の形成(道路局、環境創造局)

●新横浜駅前公園

緑陰とミストによる暑熱緩和アーチの設置(環境創造局)

●新横浜駅周辺

街路樹育成による緑陰の形成(道路局、環境創造局)

●横浜国際総合競技場 東ゲート広場

フラクタル日よけの設置(環境創造局)

●JR新横浜駅ペDESTリアンデッキ

ミスト式冷却機(港北区)

大会当日における救護対応

東京2020組織委員会、消防局と協力して熱中症患者の発見・処置、救護所案内、救急搬送のフローを作成。東京2020組織委員会は関内の旧市庁舎第二駐車場内1か所、新横浜駅前公園内1か所に救護所の設置を検討した。

暑さ対策にあたっての新型コロナウイルス感染症への対応

暑さ対策グッズを配布するCCY(横浜市・都市ボランティア)は、活動前の検温、マスクの着用、定期的な手指消毒を徹底。グッズ配布時の対策は、来街者との接触を減らすため、お盆やかごに入れて配置し、手指消毒した上で希望者が自ら持っていく形式とする予定だった(東京2020組織委員会作成「新型コロナ対策分野別ガイドライン ラストマイル」に準拠)。

また、熱中症の注意喚起の内容を掲載したうち型パネルを掲げることで、来街者に対して大声を出さずに視覚的にメッセージを伝えようとした。

案内デスク

来街者へのおもてなしの一環として、CCY(横浜市・都市ボランティア)による競技会場への経路案内や観光案内などを目的とした案内デスクの設置(横浜スタジアム周辺3か所、横浜国際総合競技場周辺2か所)を予定していた。業務の実施に向けた事前準備として、「設営スケジュール」「事案別対応マニュアル」「緊急時対応」「問合せ対応FAQ」等を記載した運営マニュアルの作成や配布物の調達など、具体的な準備を進めていた。

設置場所

●横浜スタジアム



↑JR関内駅南口



↑地下鉄関内駅の横浜スタジアム方面改札内



←みなとみらい線日本大通り駅三塔広場(出口2前)

●横浜国際総合競技場



↑JR新横浜駅中央改札前



↑JR小机駅北口

配布物

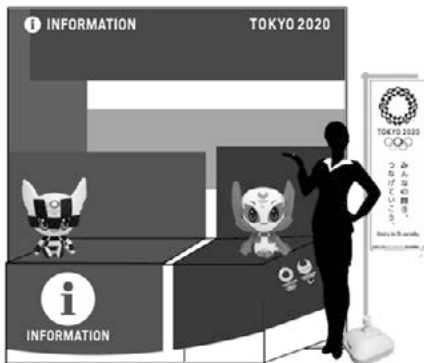
コロナ対策の観点から袋にパンフレット類を入れて観客へ配布予定だった。



↑左が袋の表面、右が袋の裏面



↑パンフレットの一例



←案内デスクのイメージ。大会PRや観光のチラシ、パンフレットも配布予定だった

総括

事前調整を通して、民間企業(ホテル、コンビニ、ドラッグストア、公共交通機関等)と協力して、実施する関係を築くことができた。また、関係区局が実施できる基本的な対策をまとめ、今後の大規模イベント時の基礎資料とすることができた。

美化対策

市内両競技会場のラストマイル上には、多数の来街者で混雑することが予想されたため、ごみ問題など美化対策についても東京2020組織委員会を交えて協議した。特に1日数試合が行われる日の美化対策については、関係各所が役割分担し、対応にあたる予定だった。

●資源循環局

試合当日の午前及び試合日の翌日の午前に、委託による清掃

●CCY(横浜市・都市ボランティア)

複数の試合がある日の試合と試合の間に、ボランティアによる清掃

●東京2020組織委員会

- ・誘導スタッフが休憩に入る前にごみ拾いし、各開催日の最終試合後に一斉清掃
- ・手荷物検査等によって入場待ちの時間が長くなることを想定し、旧市庁舎第二駐車場に仮設トイレを設置

喫煙対策

競技会場及び会場周辺に喫煙所を設置しない方針だったため、喫煙対策について東京2020組織委員会を交え、庁内関係部署と調整を行った。対策として、歩きタバコや吸い殻のポイ捨てを防止するために、資源循環局が会場周辺にマナー啓発員を委託で配置し、喫煙マナーの啓発や既存の公設喫煙所への案内を行う予定だった。

安全確認

CCY(横浜市・都市ボランティア)の活動状況の把握や危機事案発生時に迅速な対応がとれるよう、横浜市が管理している繁華街安心カメラを活用し、試合当日、両競技会場の現地支部にてそれぞれの会場周辺の安全確認を実施した。また、職員による巡視も適宜行った。

交通輸送

観客や選手をはじめとする大会関係者を競技会場まで安全かつ円滑に輸送する業務が、交通輸送。本大会においては無観客開催となったが、選手・大会関係者の輸送確保のため、競技会場周辺の一部で交通規制及び公園や一部施設の利用制限などを行った。また、それに伴う横浜スタジアム周辺を運行する市営バスや歩行者の迂回ルートが設けられ、市民をはじめとする利用者の皆様のご協力をいただいた。

交通規制

無観客開催により、当初予定していた規制が縮小され、選手・大会関係者が専用利用する部分のみ規制することになった。また、混雑緩和のために迂回エリアを設定し迂回を呼びかけたほか、道路工事の抑制についても関係区局へ協力を依頼し、約1か月の規制期間中に、大きな混乱もなく終了した。

横浜スタジアム周辺 2021年7月11日～8月9日

- ①旧市庁舎と横浜スタジアムとの間の関内駅南口交差点内にフェンスを設置し、大会関係者専用通路を確保。一部区間は終日車両通行止め及び歩行禁止。
- ②横浜スタジアムと首都高速道路の間の道路は、選手・大会関係者のバス乗降場所となるため、終日車両通行止め及び歩行禁止。
- ③首都高速横羽線横浜公園(上り)出口は通行止め。横浜公園(下り)の出口規制は大さん橋方面のみ通行可能とした。

横浜国際総合競技場周辺 2021年7月22日～8月7日

競技会場エリアに隣接している新横浜公園交差点の一部を規制した。ただし、小机地区は通行規制を予定していたが、無観客開催により実施しなかった。



↑横浜スタジアムー旧市庁舎間の交通規制



↑新横浜公園交差点で行われた交通規制

交通規制に伴う市営バス迂回

市営バスは7月11日から8月9日までの約1か月間、迂回ルートを行い、当該期間は一部バス停の位置も変更した(バス停の地下鉄関内駅は休止、港町は移設、横浜スタジアム前は本牧方面行のみ移設)。神奈川県警察による路上駐車取り締まりなども行い、概ね順調に運行することができた。



↑関内駅北口に設置した港町(仮設)バス停

公園の利用制限

7月23日～8月9日の間、横浜スタジアムが位置する横浜公園は終日立入禁止とした。

横浜国際総合競技場に隣接する新横浜公園は、試合日のみ有料施設(テニスコート・ドッグランなど)の利用を中止。共に大きな混乱もなく無事に終了した。



↑横浜公園利用制限(ハマスチ入口交差点方面出入口)



↑横浜公園立ち入り制限のお知らせチラシ配布の様子

交通輸送

横浜スタジアム、横浜国際総合競技場ともに大きな混乱もなく、選手・大会関係者の輸送を実施した。



↑輸送ルートの一部(関内・本牧線)

広報活動

交通規制の詳細の内容については、6月中に競技会場周辺へのチラシのポスティングや、各町内会の掲示板などを通じて周知を呼びかけた。

東京2020大会横浜市ウェブサイト、横浜市LINE、「広報よこはま」6月号及び7月号などでも広く周知を行った。



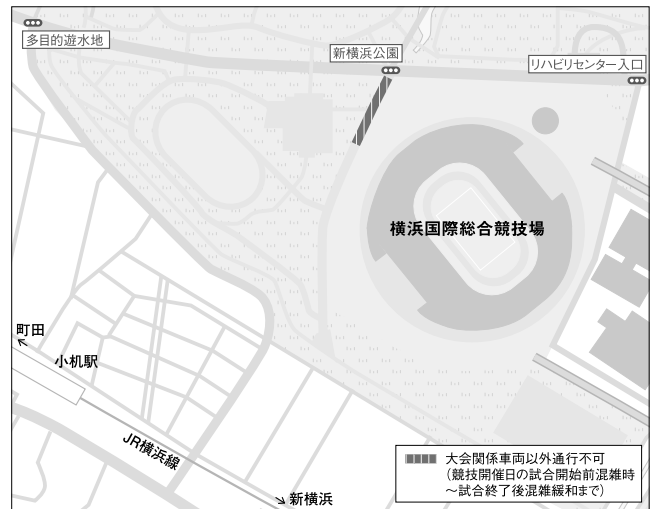
↑交通規制実施時の東京2020大会横浜市ウェブサイト

←横浜スタジアム用の交通規制のお知らせチラシ

横浜スタジアム 交通規制図



横浜国際総合競技場 交通規制図



横浜スタジアム 市営バス迂回図



横浜スタジアム 歩行者迂回図



危機管理・医療救護体制

危機管理

競技会場及び会場周辺などで危機事案が発生した場合に、迅速・的確な対応を行い、大会関係者や市民の安全を確保するため、全庁的に危機管理体制を確立して対応した。また、大会に関連する危機事案を未然に防止し、発生した場合に被害を最小限にとどめるための対処方針を迅速に決定する大会警戒本部体制の全体統括として、市庁舎に大会警戒本部を設置した。

体制

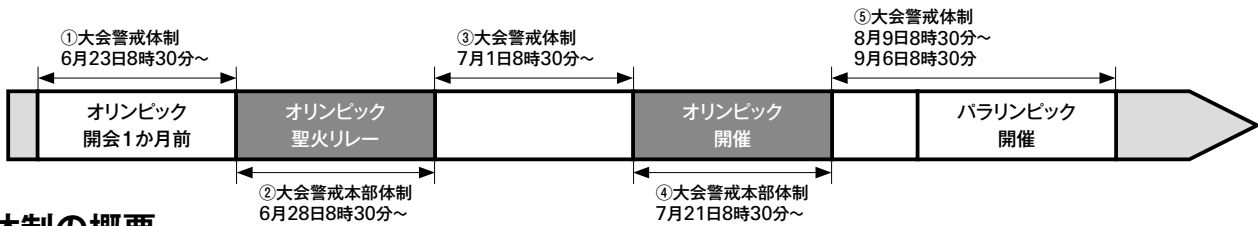
体制確立期間

大会警戒体制

大会警戒本部体制を確立する前に大会警戒体制を確立し、全庁的な危機管理体制の強化を図る。

大会警戒本部体制

大会開催期間を中心に、全庁的な体制を大会警戒体制から一段強化し、関係区局により大会警戒本部を設置するなど、あらゆる危機事案の未然防止と発生時の迅速・的確な対応体制を確立する。



体制の概要

組織	設置場所	構成区局
大会警戒本部	市庁舎本部運営室	総務局(市民局、健康福祉局、医療局、環境創造局、港湾局、消防局、中区、港北区) ※()は情報受伝達体制を確保した局
医療救護本部	市庁舎医療局執務室	医療局
消防特別警戒本部	消防司令センター	消防局
消防特別警戒現地本部	競技会場内	消防局
区大会警戒本部	各区役所内	中区、港北区

危機管理体制に従事した人員は、計16日間で総員1,903人。内訳は総務局計130人、医療局計124人、消防局計1,560人、中区計49人、港北区計40人だった

総括

ラグビーワールドカップ2019™の経験を踏まえ事前対策や危機管理体制について検討を重ね、万全な体制を確立できた。構成区局を始め、オブザーバーとして神奈川県、神奈川県警察、海上保安庁、東京2020組織委員会等関係機関の協力を仰いだ。本大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により市内競技会場では無観客開催となり、テロや熱中症の集団発生などの危機事案の発生もなく、無事に終了。ラグビーワールドカップ2019™、今大会の横浜市危機管理体制において得た経験を、将来横浜市で実施される大規模イベントなどにおける危機管理体制の構築に生かしていく。



←大会警戒本部ではモニターによる開催状況などの確認が行われた



→市庁舎本部運営室に設置された大会警戒本部

医療救護

大会の開催期間中に迅速かつ確実な医療サービスを提供するための医療救護体制構築等を検討することを目的に、市内の医療機関や東京2020組織委員会、行政の関連部局が連携して議論する場として医療救護検討部会を設置し、検討を重ねた。医療救護検討部会での検討は大会後の総括も含めて9回に及んだ。

庁内においては、大会警戒本部、消防特別警戒本部及び医療機関などと連携。大会関連施設などで多数の傷病者が発生した際には、医療機関での円滑な受け入れを図るため、医療局内に医療救護本部を設置した。

体制

市内競技会場の医療救護体制は、都内競技会場のように1会場を1医療機関で対応する体制ではなく、競技会場や練習会場、宿泊先からの傷病者の受入や、競技会場内の医務室への医療スタッフの派遣(下図参照)等、横浜市内の複数の医療機関が一体となって対応する体制(オール横浜体制)を敷いた。

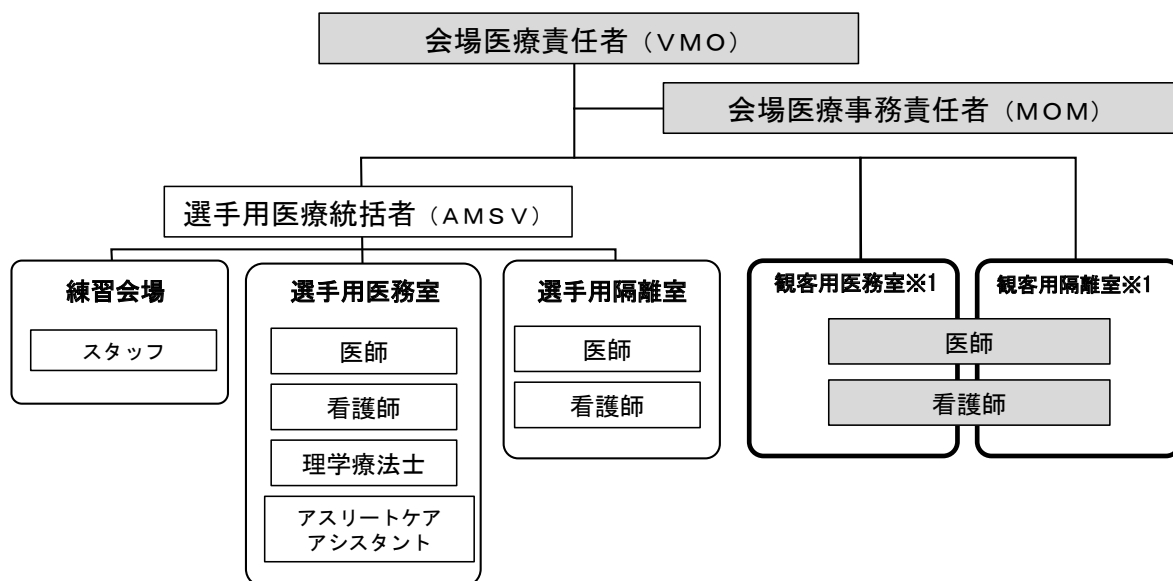
医療スタッフについては、28医療機関から医師30名、看護師60名が派遣される予定だったが、無観客開催の決定に伴い医師23名、看護師37名の体制となった(新型コロナウイルス感染症対策については、P61参照)。

総括

オール横浜体制で臨み、大きな問題もなく大会を終えることができた。また、1医療機関に負担が偏ることもなく、各医療機関からも概ね好評を得ることができた。特に会場医療事務責任者(MOM)を担うこととなった薬剤師の存在は大きかった。医療救護検討部会において、今後の横浜市で開催される大規模スポーツイベントでもオール横浜体制で臨んでいくことを確認した。

大会期間中の医療救護体制

グレー部分:横浜市から派遣や配置を行った部分



救急車：横浜スタジアム 3台（選手用1台、観客用1台※1、補完用1台）
横浜国際総合競技場 3台（選手用1台、観客用1台※1、補完用1台）※2

※1 無観客開催となったため、関係者用として活用

※2 8月6日女子サッカー決勝戦のみ2台（選手用1台、関係者用1台）

※競技会場内の医療救護体制図。横浜市内の複数の医療機関から派遣されたスタッフがそれぞれの役割を担った

食品衛生対策

大会開催中に飲食を原因とする健康被害が発生してしまうと、大会運営だけでなく市内外の公衆衛生維持に大きな影響を及ぼすことが考えられたため、健康福祉局食品衛生課及び福祉保健センターが一丸となって食品衛生対策を実施した。また、今大会は新型コロナウイルス感染症が流行している中での開催だったため、東京2020組織委員会等と綿密に情報共有し、感染対策に万全を期すことに加え、監視計画を常時見直しながら対策を進めた。

内容

大会開催前の対策として、弁当・ケータリングの製造施設、競技会場内調理場・売店、会場周辺の宿泊施設・商業施設・繁華街等の食品取扱施設に対し、302件の立入検査を実施した。また、会場周辺の飲食店等を中心に13,636件に対して食中毒予防等の啓発資料の配付を実施した。大会当日、市内競技会場は無観客となったが、調理場や弁当などの保管場所、会場周辺の立入検査を35件実施し、食の安全を確保した。

大会前の対策

2021年6月3日～7月21日

実施内容

- 会場周辺飲食店への屋外調理注意、食中毒・新型コロナウイルス予防啓発資料送付
- 宿泊施設への監視、収去、食中毒・新型コロナウイルス予防啓発資料送付
- 商業施設、繁華街への監視、食中毒・新型コロナウイルス予防啓発資料送付

実施結果

	対象施設数	監視件数	収去検体数	啓発資料配付枚数
弁当・ケータリング	8	11	10	2
競技会場内売店	45	34	0	22
競技会場周辺	1,317	0	0	4,991
宿泊施設	大規模	78	9	143
	ビジネスホテル	—	1	261
商業施設、繁華街	27*	247	0	8,217
計	—	302	10	13,636

※商業施設、繁華街の「対象施設数」のみワールドポーターズ、赤レンガ倉庫のような施設数を計上し、他対象は許可数を計上
 ※パブリックビューイングなど、東京2020大会に関連した食品提供イベントが開催された場合、監視等を行う予定だったが、開催されなかった

大会当日の対策

(1) 監視日時

横浜スタジアム:競技実施13日間のうち、3日間実施(7月24日、29日、8月3日)

横浜国際総合競技場:競技実施9日間のうち、2日間実施(7月22日、30日)*

*追加開催された8月6日の試合における食品提供事業者に対しては、電話にて食品提供状況の確認を行い、従事者の健康管理及び手洗いの徹底等を指導した

(2) 実施内容

競技会場内のケータリング提供施設、食品提供・保管場所、会場周辺の屋外調理等の各監視

(3) 実施結果

	対象施設数	監視件数	指導件数	備考
競技会場	ケータリング調理場	3	8	1
	食品提供、保管場所	19	24	1
商業施設、繁華街	—	3*	1	※会場周辺の繁華街を巡回した回数
計	—	35	3	

→横浜市健康福祉局食品衛生課発行の食品衛生対策のチラシ



新型コロナウイルス 感染症対策

国、東京都、東京2020組織委員会で構成される「新型コロナウイルス感染症対策調整会議」において総合的な検討、調整が行われた。横浜市においては、東京2020組織委員会や市内内外の関係者と連携・調整しながら、安全・安心な大会運営及び事業実施に向けて準備を進めた。

大会期間中の主な対策

国や東京2020組織委員会の定める主なコロナ対策が、選手・大会関係者などに実施された。出入国時の検査や原則14日間の宿泊施設待機といったプレイブックの基本原則をはじめ、行動管理、健康管理が徹底的に行われた。

(1) プレイブック(抜粋)

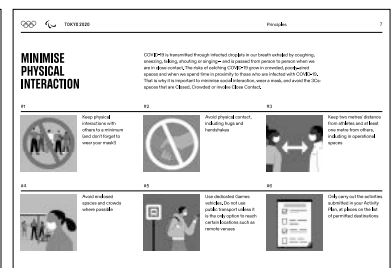
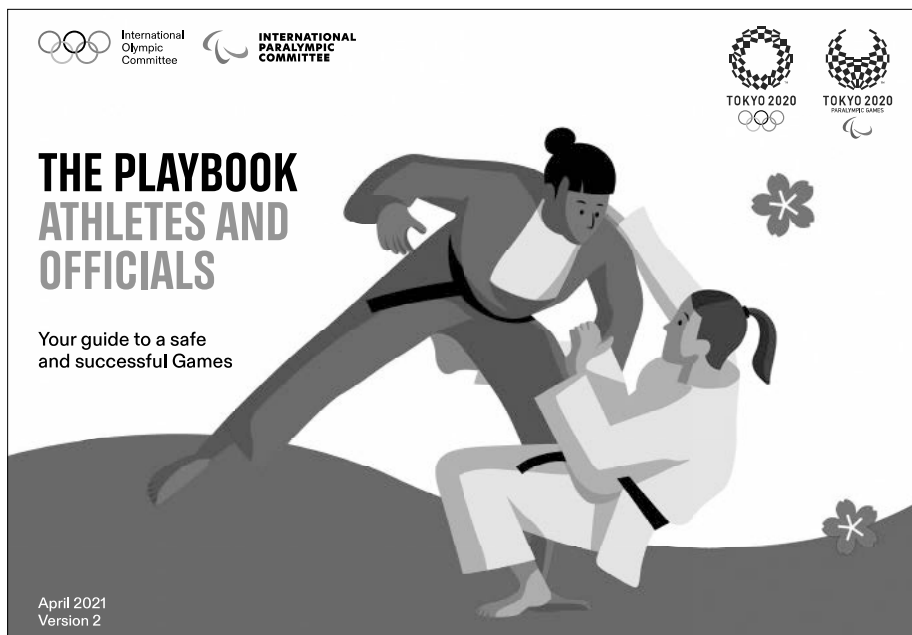
- ・ 出国前(96時間以内)に2回検査を受検(出国前[72時間以内]の陰性証明を検疫又は入国審査時に提出)
- ・ 入国時、空港において検査を受検(検査結果判明まで、指示した待機場所に留まる)
- ・ 入国後、大会関係者は、原則14日間宿泊施設で待機する。アスリートは、原則毎日検査を実施し、用務先を原則、宿泊施設、練習会場、競技会場に限定し、行動管理・健康管理を行うとともに、入国初日からの練習を認める

(2) 行動管理

- ・ 用務先(競技会場、練習会場など)と移動手段等を記載した本邦活動計画書を事前に提出
- ・ 行動計画書遵守させる旨の誓約書を提出など

(3) 健康管理

- ・ アプリ等による健康状態の報告など
- ・ 感染疑いを把握し、又は陽性判明時に陽性登録を行うため、接触確認アプリを利用
- ・ 陽性者が判明した場合、さかのぼって行動を確認するため、地図アプリで位置情報保存など

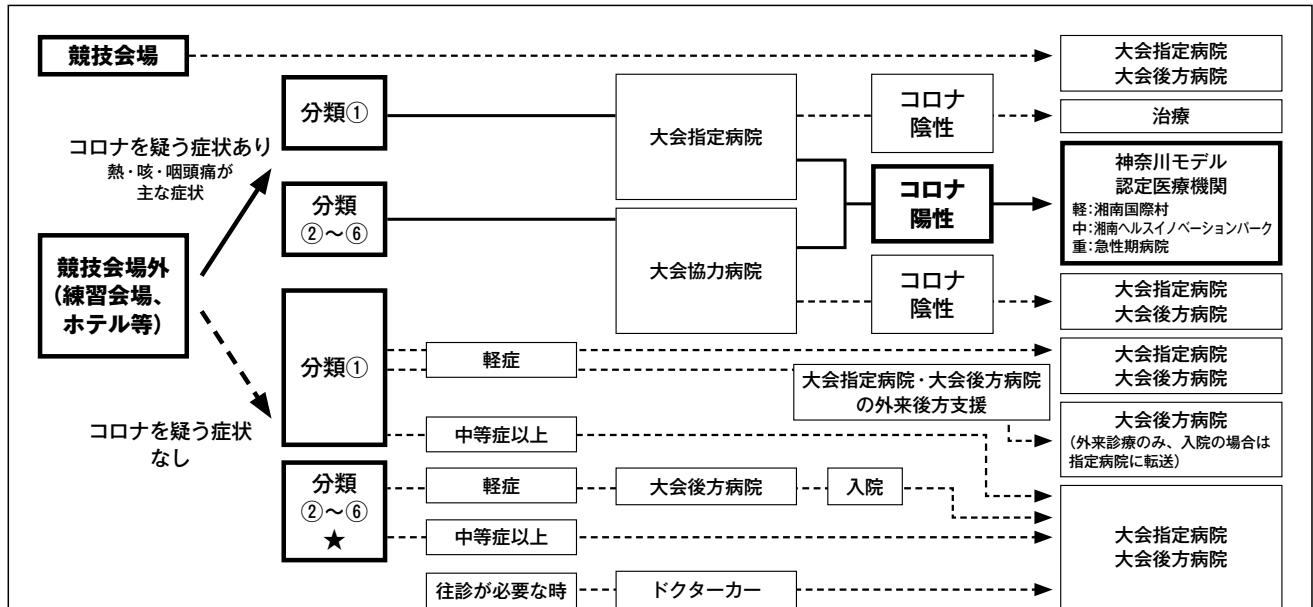


↑プレイブックにはアスリート向けのルールが記されている

↑2021年2月に初版、4月に第2版が公表されたプレイブック(英語版)

医療救護 大会関係者の一般傷病及び新型コロナウイルス感染者の対応体制

横浜市内の医療救護体制を維持しつつ、万全なコロナ対策を行うため、大会関係者の一般傷病については対応フローを分けた体制を構築。神奈川県や東京2020組織委員会と調整の上、体調不良が発生した場所、対象者の属する分類、症状ごとにそれぞれ受入を担う各医療機関を下図のように整理した。



★緊急性や受診の必要性に迷った際は対応を相談できる#7119を利用(オリンピック用の対応フローを用意)

上記図内の大会関係者の分類

分類 (アクレディテーションカード保持者)	
①	選手及び各国選手団
②	国際競技連盟(審判、技術役員、スタッフ等)
③	オリンピック・パラリンピックファミリー(国際オリンピック委員会及び国際パラリンピック委員会関係者、次回大会以降の組織委員会関係者、要人等)
④	メディア関係者(出版、カメラマン等)、放送関係者
⑤	マーケティングパートナー
⑥	大会スタッフ(東京2020組織委員会が雇用する有給スタッフ、委託先事業者の従業員及びボランティア等)

ボランティア関係者に対するワクチン接種

東京2020大会において横浜市で活動するボランティアなどの安全で安心な活動を実施するために、横浜市ボランティア関係者などに対して新型コロナウイルスワクチン接種を行った。ボランティア活動自体は中止になったが、職域接種を活用して接種を希望する1,212人に2回の接種を実施した。

- ①**実施日** 【1回目】7月13日～15日
【2回目】8月10日～12日、18日
- ②**実施会場** 関内中央ビル
- ③**実施対象者** 横浜市・都市ボランティア
英国事前キャンプ横浜市ボランティア
横浜市関係職員など
- ④**接種ワクチン** モデルナ製ワクチン



↑関内中央ビル内に設けられたワクチン接種会場

会場責任者インタビュー

～横浜スタジアム～

東京2020組織委員会
横浜スタジアム会場責任者

坂口裕之さん

プロフィール●ENEOS株式会社より東京2020組織委員会に出向し、横浜スタジアムの会場責任者を務める。選手時代は、バルセロナ1992オリンピック・野球日本代表で、銅メダル獲得。引退後は日本石油野球部監督、日本代表チームコーチなどを歴任。NHK高校野球の解説者なども務める。



開催前の取組について

2019年4月1日に東京2020組織委員会へ赴任し、横浜スタジアムのVGM（会場責任者）を拝命いたしました。私は、1992年のバルセロナ大会にアスリートとしてオリンピックへ出場した経験もありました。オリンピックへの思いは人一倍強く、日本で行われるこの大会を必ず成功させることを思いながら業務に取り組んでいました。

2020年3月に大会の延期が発表された時、予測を超える出来事が起こってしまい、変化対応に追われ、さらに1年延期でモチベーションを維持させなければならない多くの苦労を経験いたしました。その後も新型コロナウイルス感染症の脅威は収まらず、不安の中コロナ対策を講じながら、メンバーと日々、大会準備を進めていくことになりました。

大会が近づき、なんと無観客での開催となりました。お客さまの「おもてなし」のことを、何年もかけて考えてくれたメンバーの顔を思い浮かべましたら涙が止まりませんでした。

ソフト、野球の決勝会場に。大会中の取組

2021年7月21日に野球・ソフトボール競技は福島あづま球場でスタートしました。福島あづま球場でソフトボール競技の開幕試合をテレビで拝見した時に、喜びと嬉しさと緊張感に包まれました。

7月24日が横浜スタジアムでの開幕日です。ほどよい緊張感の中、大会は順調に進みました。大会期間中は、天候にも恵まれ、予定通りに7月27日にメダルマッチとなり、ソフトボール日本代表が見事に金メダルを獲得しました。勝利した瞬間に職員やフィールドキャストのメンバーが涙を流していて、その涙を見た時にオリンピックの偉大さ、スポーツの偉大さを再確認することができました。

7月28日から野球競技が福島あづま球場でスタート。翌日

の7月29日から横浜スタジアムでの野球競技が始まりました。こちらでも緊迫した試合が続き、息の抜けない毎日でした。天候に恵まれ順調に試合が進み、8月7日にメダルマッチになります。野球日本代表が見事に金メダルを獲得してくれました。メダルセレモニー後に日本代表の稲葉監督へ「おめでとうございます」と声をかけましたら「スタッフ、ボランティアの皆さんに本当にお世話になりました」との声が返ってきました。稲葉監督の気配りに感動し、勝つチームは選手とスタッフが一体となり、周囲からも共感を呼ぶチーム作りができるものだと実感いたしました。

大会期間中、多くのフィールドキャストの方にご参加いただきました。私はすべての方に「競技運営、大会運営の金メダルを獲得しましょう」と言葉をかけました。参加した皆さんが横浜スタジアムに来てよかった、この大会に参加してよかった、と言えるような活動をしましょうと言いつづけました。大会後に多くの方からお礼のメッセージをいただき、大会運営に携わった多くの方が大会運営の金メダルを獲得されたと感じました。

最後に

この大会を運営するにあたり、横浜市さんには大変お世話になりました。特に延期になった際の会場調整には多大なるご協力をいただきました。また、東京2020組織委員会に配属されました横浜市のメンバーは優秀な方ばかりで、大会への思いも強く、その方々の結束が大会成功につながったことは間違いありません。

横浜スタジアムさんにも大変お世話になりました。東京2020組織委員会からの依頼に対して、いつも快く迅速にご対応いただきましたし、大会期間中も多大なるサポートをいただきました。オリンピック仕様になった横浜スタジアムはベイスターズブルーが映え、オリンピックカラーとマッチし、IOCメンバーも球場の美しさに魅了されていました。

そのほかにも治安機関の方々は、大会期間中24時間体制で大会の安全を守っていただきましたし、医療機関の方々にはアスリート、大会関係者の体調管理をしていただきました。

多くの方々に支えられた東京2020大会は、大会に携わっていただいた方々が準備を滞りなく行い、心から大会の成功を信じ、粛々と取組んだことで無事に終えることができました。

結びに、ソフトボールと野球の日本代表が同時に金メダルを獲得したオリンピックは初めてのことです。ここ横浜市にレガシーとして残る大会になりました。アスリートに感謝し、横浜市さんに感謝し、大会を支えてくれたメンバーにも感謝しかありません。横浜で行われたこのオリンピックは、仲間の大切さを教えてくれた後世に残る素晴らしい大会でした。

会場責任者インタビュー ～横浜国際総合競技場～

東京2020組織委員会 サッカー統括
横浜国際総合競技場会場責任者

岸部明彦さん

プロフィール●パナソニック株式会社に勤務。大会期間中は東京2020組織委員会直接契約職員として横浜国際総合競技場の会場責任者を務める。これまでJリーグ・ガンバ大阪のホームスタジアムである、パナソニックスタジアム吹田の建設や、ガンバ大阪の運営に関わってきた。



開催前の取組について

2014年から、オリンピックトップスポンサーの立場でオリンピック・パラリンピックに関わり、2018年11月に東京2020組織委員会のサッカー統括、かつ横浜国際総合競技場の会場責任者を担当することになりました。Jリーグクラブチームへの出向経験を生かして、会場運営を任せたいと依頼を受けました。

サッカー競技の試合は男子16か国、女子12か国が出場し、日本全国7会場(オリンピックスタジアム・札幌・宮城・鹿島・埼玉・東京・横浜)にて58試合を予定していました。JFA(日本サッカー協会)・Jリーグ・Jリーグクラブ・地方サッカー協会の協力を得て、無事終了することができました。結果は男子がブラジル、女子はカナダが金メダルでした。

東京2020大会は真夏の酷暑と台風シーズンの開催であり、当初から準備が大変で、どこの会場でも暑さ対策が一番の課題でした。観客用の暑さ対策テントや冷風機の準備、学校連携生徒の動線の確保など、経費をにらみながら検討を重ねました。

横浜国際総合競技場は鶴見川に隣接した公園の中にあり、台風が来れば越水のため、地下駐車場に水が入り使えなくなります。その対応も必要でした。それにもまして開催が近づくとつれ、新型コロナウイルス感染症の患者数の拡大は深刻に。開催が危ぶまれましたが、大会の1週間前に無観客での開催が決定しました。

サッカー男女の決勝会場に。大会中の取組

私は、横浜国際総合競技場のVGM(会場責任者)として、チームスローガンを「THE BEST FINAL～ISY笑顔でお迎えしよう(Instantly we Say Yes with smile)」としました。2002FIFAワールドカップ™決勝、ラグビーワールドカップ2019™決勝、これらの大会に負けない素晴らしい東京2020大会サッカーの

決勝会場を、みんなで作り上げようとの思いからでした。

Jリーグの試合との関係もあり、会場入りは7月に入ってからでした。関係者全員の協力を得て、短期間で会場作りが急ピッチで進められました。大会準備を進めるにあたり、朝夕会で毎回チーム全員で以下の確認をしました。

- ①施設内ルールの順守(制限時速、喫煙、コロナ対策など)
- ②情報共有の徹底
- ③他者への気遣い、感謝

おかげさまで大会期間中は天候にも恵まれ、事故もなく無事終了することができました。

横浜市をはじめ、指定管理者、ボランティア、スタッフ、関係者の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。特にサッカー女子の決勝がオリンピックスタジアムから横浜国際総合競技場に変更になりました。前代未聞の会場変更の連絡を受けたのは、決勝前日(8月5日)の夕方7時でした。スタッフ全員に集合してもらい、開催可能か徹底議論しました。とはいえ、実行するしか結論はありませんでしたが…課題は明確でした。

- ①選手スタッフ医療体制の不足
- ②表彰式の準備不足(メダル、国旗掲揚、表彰台など)
- ③選手スタッフ食料準備不足

連絡を受けてから、スタッフ全員で深夜まで課題の解決に奮闘、翌日は全員寝不足ながらなんとか乗り切りました。ただ、試合は延長・PK戦までもつれ、ホテルに帰ったのが早朝4時だったのは幾分余計でした。翌日は男子決勝があり、延長戦までもつれました。ボランティアスタッフを含め全員くたくたになりながらも、終わった瞬間は達成感で一杯でした。

最後に

大会後、コロナ禍で全員が集まることはできませんが、この運営チームは最高のメンバーでした。いつかまた集まり苦労を語り合いたいと思います。最近のテレビ番組で東京2020大会のメダリストが活躍している姿を拝見し、無観客とはいえ開催をして良かったと感じています。

改めて、大会開催に多くの皆様のご協力をいただきましたことに、御礼申し上げます。スローガンのとおり、男女2試合の素晴らしい決勝を横浜国際総合競技場で開催できたことは一生の宝物です。次の世界大会でも、この会場が活躍の場になることを心から願っています。